



- Initiative for Global Arts & Sciences -
 グローバルな学術の共創



YNU 横浜国立大学
 YOKOHAMA National University



平成22事業年度業務実績報告の概要

横浜国立大学の理念と目標

4つの精神

(大学憲章より)

「実践性」 「先進性」
「開放性」 「国際性」

第2期中期目標期間

(平成22～27年度)

理念：人々の福祉と社会の持続的発展に貢献
責務：創造性ある高度専門職業人養成
目標：実践的学術の国際拠点

教職員・学生での基本方針の共有

YNUイニシアティブと
YNUリサーチイニシアティブの制定



横浜国立大学学部・大学院組織再編成概要

平成23年度から

大学院

教育学研究科
・教育実践専攻 100人

文理融合大学院

都市イノベーション
学府・研究院
D:12人 M:105人

環境情報学府
・研究院
D:48人 M:173人

工学府
・研究院
D:41人 M:322人

国際社会
科学研究科
D:35人 M:108人 P:40人

学部

教育人間科学部
・学校教育課程(教員養成)230人
・人間文化課程 150人

理工学部 745人
4学科・13教育プログラム(EP)
主専攻・副専攻

経済
学部
230人

経営
学部
307人

平成22年度まで

より実践的な教育研究・新たな学問領域の創設

大学院

教育学研究科
・9専攻 130人

環境情報学府・
研究院
D:60人 M:146人

工学府・研究院
D:51人 M:343人

国際社会
科学研究科
D:35人 M:108人 P:40人

学部

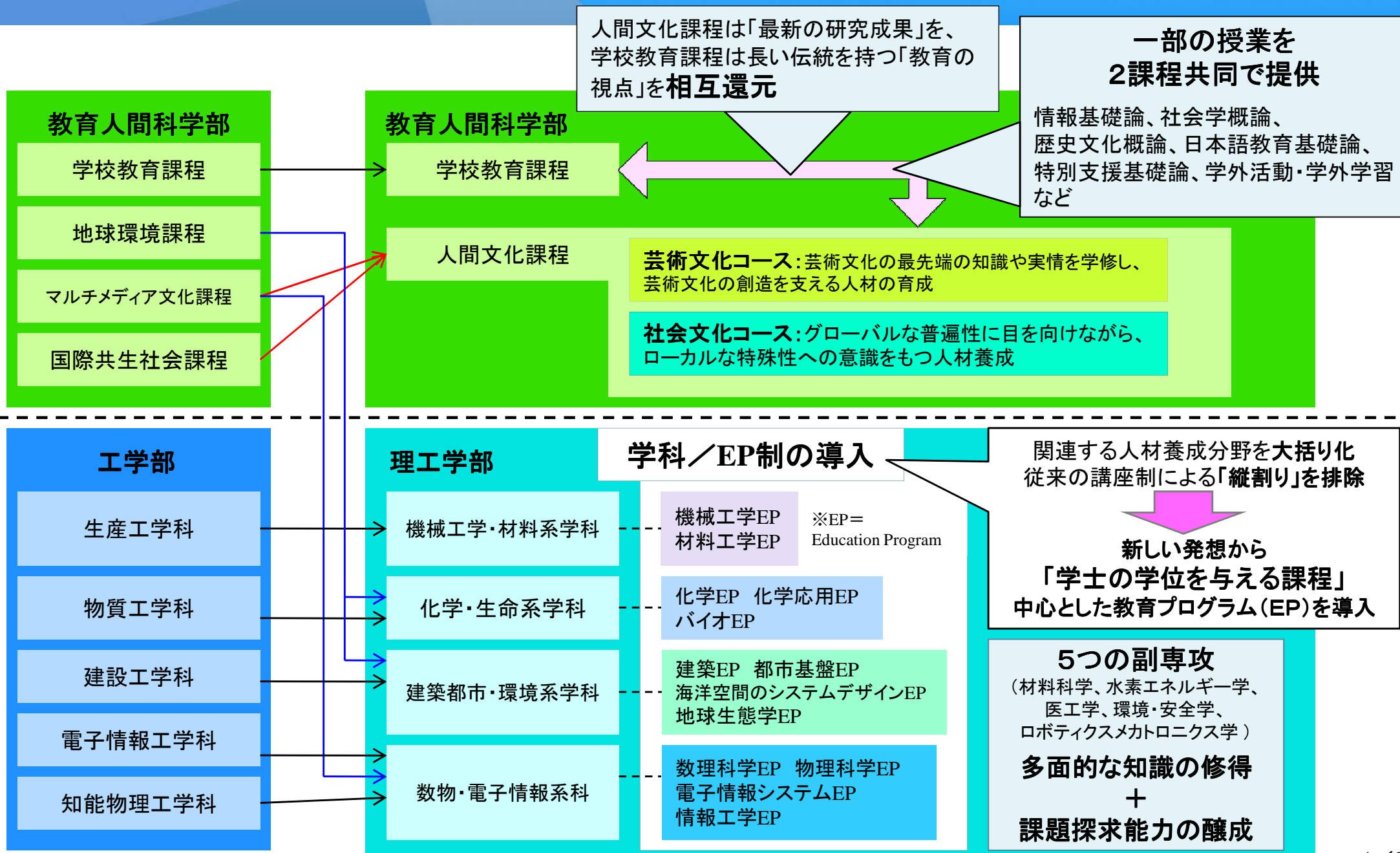
教育人間科学部
・学校教育課程(教員養成) 230人
・地球環境課程, マルチメディア文化課程,
国際共生社会課程 230人

工学部 665人
・生産工学科, 物質工学科, 建設学科
電子情報工学科, 知能物理工学科

経済
学部
230人

経営
学部
307人

教育人間科学部人間文化課程と理工学部を設置



教育人間科学部 人間文化課程の設置

(学生受入平成23年度)

国立文系の未来形、横浜に誕生
—文化・芸術、またこれからの社会への取組を考える—

マルチメディア文化課程

情報科学、認知科学、文化コンテンツの理解・創造

国際共生社会課程

多文化共生、異文化理解

改編

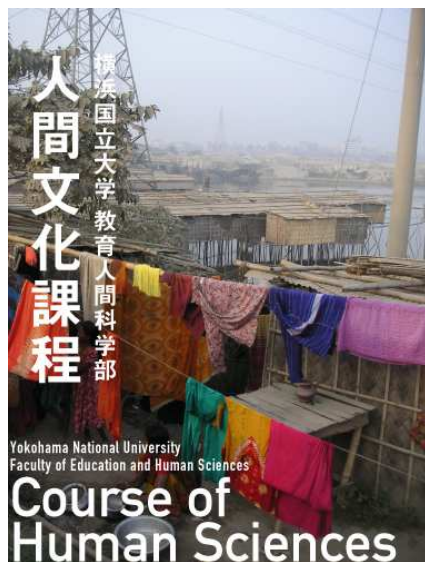
人間文化課程

芸術文化コース

芸術文化の最先端の知識や実情を学修し、芸術文化の創造を支える人材の育成

社会文化コース

グローバルな普遍性に目を向けながら、ローカルな特殊性への意識をもつ人材養成



最先端の
研究成果

一部の授業を
2課程共同で提供

社会分析基礎論、情報基礎論、
社会学概論、歴史文化概論、
日本語教育基礎論、特別支援基礎論
学外活動・学外学習 等

長い伝統を
持つ、教育
の視点

学校教育課程

社会的視野からの学校教育の理解、
臨床的実践能力を持った教員養成



理工学部の設置

(学生受入平成23年度)

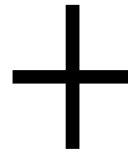
工学的センスを持った理学系科学者、あるいは
理学的センスを持った工学技術者の育成

教育分野を再編成して、
理学から工学までをカバー

教育人間科学部
理学系分野
(地球科学、生態学、
情報科学、数理科学)

工学部
(機械・材料工学、化学、応用化学、
生物、都市基盤、建築、
電気・電子・通信・情報、物理)

環境情報研究院
(生態リスク学など)



教育課程の再編

学科／EP制の導入

新しい発想から
「学士の学位を与える課程」
中心とした教育プログラム(EP)を導入

※EP=Education Program

関連する分野を大括り化

従来の講座制による
「縦割り」を排除

機械工学・材料系学科

- ・機械工学EP
- ・材料工学EP

化学・生命系学科

- ・化学EP
- ・化学応用EP
- ・バイオEP

建築都市・環境系学科

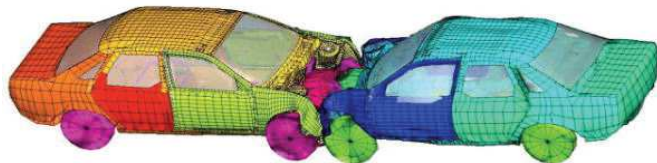
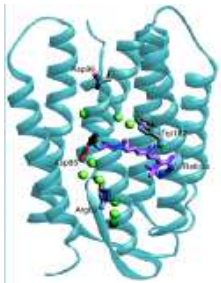
- ・建築EP
- ・都市基盤EP
- ・海洋空間の
システムデザインEP
- ・地球生態学EP

数物・電子情報系科

- ・数理科学EP
- ・物理学EP
- ・電子情報
システムEP
- ・情報工学EP

5つの副専攻
(材料科学、水素エネルギー学、
医工学、環境・安全学、
ロボティクスメカトロニクス学)

多面的な知識の修得
+
課題探求能力の醸成



都市イノベーション学府/研究院の設置

(学生受入平成23年度)

持続可能な発展と創造性を備えた
新たな都市像の提案

教育学研究科

都市に関わる
研究分野

環境情報学府

都市情報文化、
都市情報メディア文化、
芸術文化、共生社会

工学府

建築学、都市基盤学、
都市自立環境システム、
都市環境マネジメント

2つの観点で
統合・集約

「持続可能性」
(都市基盤・都市環境
異文化共生)

「創造性」
(芸術・文化・
建築デザイン)

人間に優しく美しい建築空間に係る
イノベーション

科学的評価と諸資源のマネジメント
手法に係るイノベーション

固有性との共生に基づく都市空間に
係るイノベーション

都市イノベーション専攻(博士後期):
幅広い工学分野の知識に裏打ちされた高度な技術性・科学性と、人間の多様性を前提として都市の持続的発展を可能にする人文社会諸科学のより高いレベルでの知識とを融合させ多様な課題の解決を目指す教育研究

建築都市文化専攻(博士前期):
主に成熟都市を対象に、建築空間と都市文化という特性に注目し、質の高い生活空間とその持続的発展に関する教育研究

都市地域社会専攻(博士前期):
主に新興・途上都市を対象に、都市基盤の革新と地域社会の特性に根ざした発展に関する教育研究



多様な国際色と文化をもつ
横浜がフィールド



充実したスタジオ教育により
実践能力を養成

YNU 横浜国立大学
YOKOHAMA National University

教育学研究科9専攻を教育実践専攻に統一

(学生受入平成23年度)

実践力と教科専門能力、双方を備えた教員の養成

従来の9専攻

学校教育臨床

学校教育

特別支援教育

言語文化系教育

社会系教育

自然系教育

健康・スポーツ系教育

生活システム系教育

芸術系教育

教育学研究者 … 教育科学

文学・理学研究者 … 教育内容学

教員養成系出身者 … 教科教育学
教職経験者

三者の連携が不十分。

学校現場で通用する実践的な授業構築能力が養成できない。

1専攻に統一

教育インターン科目を必修化

教育実践専攻

教育科学・教科内容学・教科教育学の連携

旧専攻区分を横断する基盤の探求と教科間の連動

教育現場での連携・協力による教育課程



YNU 横浜国立大学
YOKOHAMA National University



学部・大学院教育の充実

- ・教育の基本方針「YNUイニシアティブ」(学位授与, 教育課程編成・実施, 入学者受入, FD推進の4方針)を策定
- ・アドミッションポリシーに基づき, 入学者選抜要項に「試験科目設定の意図」を明示
- ・H22年度学年暦から「試験期間を除き半期15週」の授業期間を確保
- ・Webシラバスと成績登録機能を有する「学務情報システム」が本格稼働し, 教員の利便性ととも, 学生への成績開示時期を早期化
- ・21年度大学院入学者からGPA制度を導入, 22年度修了判定からGPA制度を適用し, 大学院課程制度の実質化

【副専攻の活動状況】

- ・文理融合的副専攻プログラムにおけるスタジオ教育試行プロジェクト『ワダチャリ』
- ・副専攻「企業成長戦略プログラム」では「日産自動車CEOカルロス・ゴーン氏」を招き, 同社共催で「未来フォーラム」を開催



講演中のゴーン氏



←
「ワダチャリ」
のポスター

**【横浜国立大学学士課程】
教育目標の達成に向けて**

横浜国立大学は、本学の(グランドデザイン)のもとに「学士課程の教育目標」を設定し、学位授与、教育課程の編成と実施、入学者受入の3つの方針とともに、教育の質の持続的向上に関する方針を定め、学士課程の教育目標達成に向けて前進していきます。

Policy 1 【学位授与】国際的に通用する学位を授与するために

横浜国立大学は、幅広い教養や確かな専門的知識などに基づいて、徹底的に課題解決に取り組み、適切に判断する人材に求められる力や、次のような実践を通して、「知」と考え、これらを身につけた人材に対して適切な評価をし、国際的に通用する学位を授与します。

- 身につけて欲しい4つの実践的「知」

知識・教養 専門分野に関する基本的知識 ・社会・文化・自然を幅広く理解し、総論 ・文化・自然を幅広く理解し、総論	思考力 課題解決のプロセスなどを駆使する論理的思考力 ・目的や手段を自ら設定し、論理的思考力 ・知識・技能を生かして新たな課題を生み出す創造的思考力
コミュニケーション能力 適切な言葉やメディア等を通じて、自他や異文化と積極的に 交流するコミュニケーション能力 ・多様な人々と積極的に関わりあえるリーディング	意欲・責任感 生涯にわたって学び続けようとする高い学習意欲 ・倫理的に社会をリードする志士と志士 ・社会の発展のために自らを投入して成果を創出し、高い意欲

■客観的な評価に基づき広く通用する学位

- ・客観性および標準性を備えた学習進捗評価に基づいて透明性の高い学位授与を行います。
- ・国際的に通用する共通性・標準性の高い学位を授与します。

Policy 2 【教育課程の編成と実施】実りあるYNU学士課程教育を目指して

横浜国立大学は、Policy 1 に掲げる実践的「知」を育むため、教養教育科目および専門教育科目を体系的に編成するとともに、次のような取組を通して、学士課程教育の抜本的な実質を図ります。

- 多様な知識を習得し、深い理解を促し、創発的・創造的な能力を身につけるため、
先進的な研究成果を取り入れた教育を実施します。
- 学習的意欲を身につけ、視野を拓いた人材を育てるため、主体的に学ぶ機会を創出します。
- 課題を研究し、意欲的に探究し、独創的に解決する能力を育むため、
対話型・学生参加型の授業を計画的かつ効果的に実施します。
- 自分の学びが世界に響かせることとなるよう、
高いコミュニケーション能力と国際性を育成する教育を全学的に展開します。
- 学生の質に応じた自己実現を支援するため、
職業観、人生観、社会観の醸成を図るキャリア教育を導入時から実施します。

**“YNU initiative”
学びの羅針盤として、学士課程の教育目標
が書かれています。**

YNU initiative

Policy 3 【入学者受入】社会に貢献できる意欲的な学生を求めて

横浜国立大学は、自らに求めた中高生やキャンパスで学ぶ学生が、世界中からの友と誇らいつつ、豊かな教育と総合的・創造的な課題解決能力を身につけ、社会の中核となるグローバルな社会に貢献したいと思う人を求めています。

- 真の実力を得たい!
- 洞察力を磨きたい!
- 世界の舞台で活躍したい!
- 高度な専門知識で社会に貢献したい!

Policy 4 【教育の質の持続的向上】常に質の高い教育を提供するために

横浜国立大学は、教職員が自らの質と能力を向上させる覚悟(ファカルティ・ディベロップメント、スタッフ・ディベロップメント)を徹底し、本学が教育を持って歩むベネチア・ユニバーシティの発展を、向上を促す学生支援に努めています。

- ファカルティ・ディベロップメント(FD)
- スタッフ・ディベロップメント(SD)

キャリア教育と学生支援

- ・ 23年度キャリア教育の義務化に向けて「キャリア教育関連科目」を体系化(4分類)して目的別履修モデル作成
- ・ キャリア教育推進部では学生のメンタルヘルスに配慮したキャリア相談, 教員向けキャリア教育講座の新規開設
- ・ 法科大学院では就職支援室設置とともに, アカデミックアドバイsteam所属チューター24名に加え, 新司法試験合格者の特別講義チューターの拡充
- ・ 学生表彰の対象拡大, 新たな表彰制度(成績優秀者表彰)を導入し, 5%程度の学生顕彰を実施
- ・ TA研修会を継続開催し, 22年度から文系TA, 理系TAで区分開催



本学卒業生による就職支援講演会も開催

キャリア教育 YNUキャリア教育

サポート体制 関連学部・科目 行事・講演会 参考資料

キャリア教育

～みなさんに、これからの社会を担っていく人として成長してもらうために～

キャリア教育は、みなさんが入学してから身につけていく一般教養・専門知識やサークル活動・アルバイトなどから得られた経験を、自分なりの将来の設計(キャリアデザイン)に活かせる力を育成します。

こちらはキャリア教育のサイト。→
見た目もキレイ。

留学(受入・派遣)の支援

- ・ 民間資金による独立採算型整備事業「大岡インターナショナルレジデンス」(留学生・研究者用居室311室)が竣工
- ・ 中国国家派遣高水平奨学生プログラムの受入学生10名に入学料, 授業料免除
- ・ 国際交流基金により私費留学生10名, 短期派遣留学生24名を海外派遣



大岡IRの学生用個室

最先端の研究への取組

- ・ 研究の基本方針「YNUリサーチイニシアティブ」(コンセプト, ポリシー, アクション, 社会とのタイアップの4項目)を策定
- ・ 研究推進機能と産学連携機能を一体的に強化し推進するため「研究推進機構」を発足させ、その下に「研究戦略推進本部」と「産学連携推進本部」を設置
- ・ 汎用性の高い機器の利用予約機能を有する「共同利用機器利用検索システム」の運用を開始。
- ・ 工学研究院では独自の説明会開催に加え、研究教員へ奨励研究費配分、採択教員への間接経費返還、研究院共通スペースの貸与等により支援
- ・ 環境情報研究院では新制度「基盤研究グループ制度」「先端研究プロジェクト制度」を構築



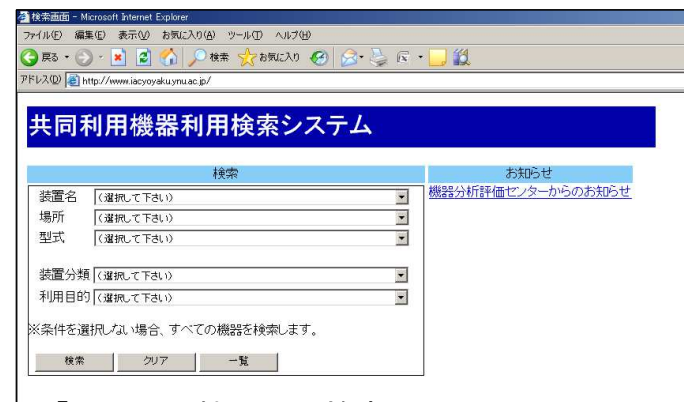
研究推進機構立ち上げ



YNUリサーチイニシアティブ



大型水槽実験棟



「共同利用機器利用検索システム」
TOP画面



透過型電子顕微鏡↑

国際化推進に向けて

- ・ 第一次国際交流重点大学(7カ国10大学)を指定して国際交流を戦略的に推進
- ・ 中国国家派遣高水平奨学生プログラムを導入。
(このプログラムのため日本語初級テキストを華東師範大学(上海)と共同開発)
- ・ 10月入学制度の普及により、「前学期・後学期」を「春学期・秋学期」に改称
- ・ 大学Webサイトに、海外からの大学院入学進学希望者のための、英語による教員紹介を掲載
- ・ 新規に「ポルトガル語版」・「韓国語版」の大学パンフレットを作成



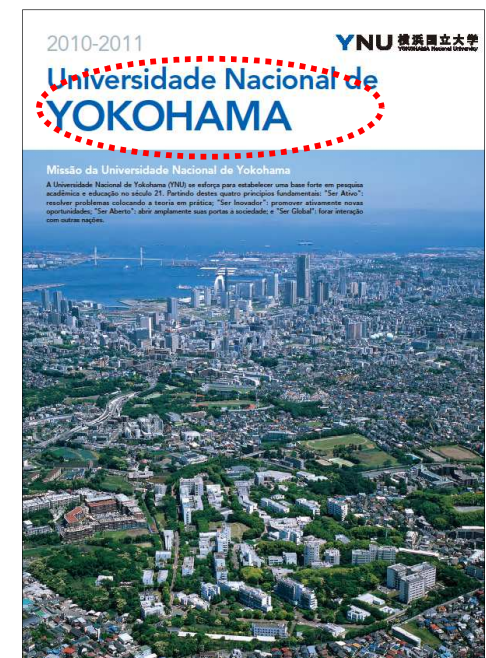
タイ国での同窓会の模様。他にもブラジルなど10か国で開催しました。



外国人研究者・留学生との交歓会も開催しています。写真は浴衣で夕涼みの会



YNU 横浜国立大学
YOKOHAMA National University



こちらはポルトガル語版パンフレット

地域社会との協働、市民への貢献

・ 本学に事務局を置く「かながわ産学公連携推進協議会」では新たに2大学と神奈川科学技術アカデミー3機関が新規参画

・ 上記協議会での企業訪問とコンサルテーション、各種イベント出展により、同協議会への技術相談案件24件のうち、2件が本学との共同研究へ実現

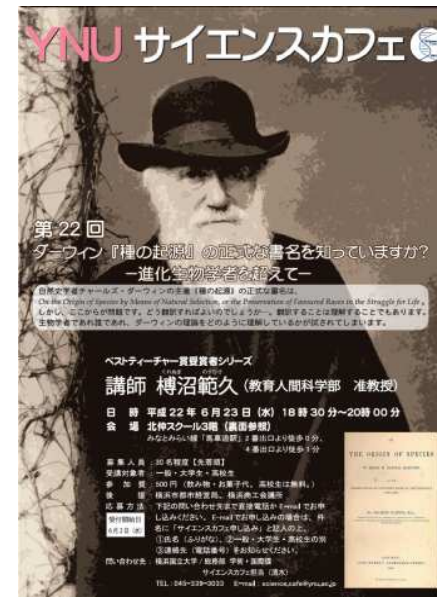
・ 読売新聞社との共催により「YY講座」を5回開催(912名受講)し、読売新聞から随時報道

・ サイエンスカフェは、「ベストティーチャー賞受賞者シリーズ(全5回)」など新たな企画で実施。神奈川県立川崎図書館、横浜緑が丘高校など、様々な場所で開講

・ 附属図書館では地域住民貸出を含めた図書館利用、神奈川県図書館ネットワークによる資料相互利用を継続実施



YY講座開催中



↑図書館内部



↑図書館外観↑

↑サイエンスカフェのポスター。なかなかオシャレ。これだけで興味津々

附属学校について

- ・ 教育人間科学部に「教育デザインセンター」を設置し、教員養成機能の高度化とともに、教育実習体制を強化
- ・ 鎌倉小学校では地域の文化交流拠点の形成を目指して「鎌倉なんとかナーレ」を開催、新しい学校開放方法を実施
- ・ 鎌倉小学校では会議と事務手続の簡素化により、入学者選抜関係事務を6日作業から4日作業に軽減
- ・ 横浜小学校、横浜中学校では神奈川県立光陵高校(小中高連携)との学校間評価の他、中高一貫カリキュラムの開発
- ・ 特別支援学校では保護者学校評価、学校評議員会により外部評価を実施



鎌倉中学校



横浜小学校



教育デザインフォーラムなど
様々なイベントも開催されました。

運営体制の改善

会議の合理化と迅速な意思決定を推進

- ・ 役員・学長補佐等で構成される「学長企画会議」を設置。

【企画立案事例】

- ・ YNU情報広場(教育文化ホールに歴史的資料アーカイブ)の設置
 - ・ 女性学生・大学院生の産休育休期間を休学限度期間から除算
 - ・ 神奈川バス協会(横浜市営バス, 相鉄バス)との連携による構内バス路線の実現
 - ・ 学内認可保育所のH24開設に向けた横浜市等関係機関との調整, 運営法人の決定
- ・ 教育研究評議会・全学委員会のスリム化(委員会数・構成員数の減)

外部有識者の意見の活用

- ・ 経営協議会委員の意見を活用(例:海外留学生同窓会の連絡体制整備)し, その取組状況をWebに公表

事務組織の効率化・合理化

- ・ 研究推進機能強化のため研究戦略推進本部を設置するとともに, 産学連携推進本部(既設)との連携強化を図るため研究推進機構を設置
- ・ これに対応するため事務組織として、研究推進部(研究推進課, 産学連携課)を設置
- ・ 国際戦略推進のため学術国際課と留学生課の企画機能を統合し「国際課」を設置
- ・ 工学研究院と環境情報研究院の事務組織を統合し, 理工系大学院事務部を設置



キャンパス内を走るバス



バス停もちゃんとあります。

人事の適正化

研修の充実・拡充

- ・ 「横浜国立大学職員能力開発プログラム(22-27年度)」を策定
- ・ 大学独自の課題(「中期目標」、「本学の財政状況」)を扱った非常勤職員対象の研修実施
- ・ 「職場での情報共有」、「理想の職場とは？」等をテーマとしたSD研修「学びのひろば」(計4回)を実施
- ・ 新規採用者のフォローアップを図るため「メンター制度」を新たに導入。同時にメンター“養成”研修も実施

男女共同参画への取組

- ・ 男女共同参画推進室(保育所設置プロジェクトチーム)を設置
- ・ 「次世代育成支援対策行動計画(H22-26)」の策定
- ・ 学内敷地に認可保育所の平成24年4月開設決定(運営法人の決定)
- ・ オープンキャンパスや入試実施日における「一時預かり保育」の継続実施



学びのひろばでのディスカッション。
様々な年代の人が集まりました。



男女共同参画推進室シンポジウム
「ダイバーシティ職場の多様性」も開催
講師はシカゴ大学・山口一男教授



男女共同参画推進室立ち上げ

YNU 横浜国立大学
YOKOHAMA National University



新規採用職員研修は附属学校視察を
加えるなど拡充を図りました。

財務内容の改善

財務制度改革と財務分析の活用

- 「予算制度改革の基本的方向性」を取りまとめ、22年度予算から「学内重点化競争的経費」とし、学長・部局長裁量予算額を増額
(対教育研究相当費比→21年度18.99%, 22年度23.60%, 23年度24.08%)
- 第1期中期目標期間(H16~21)の「財務レポート」を作成

内部監査体制の強化

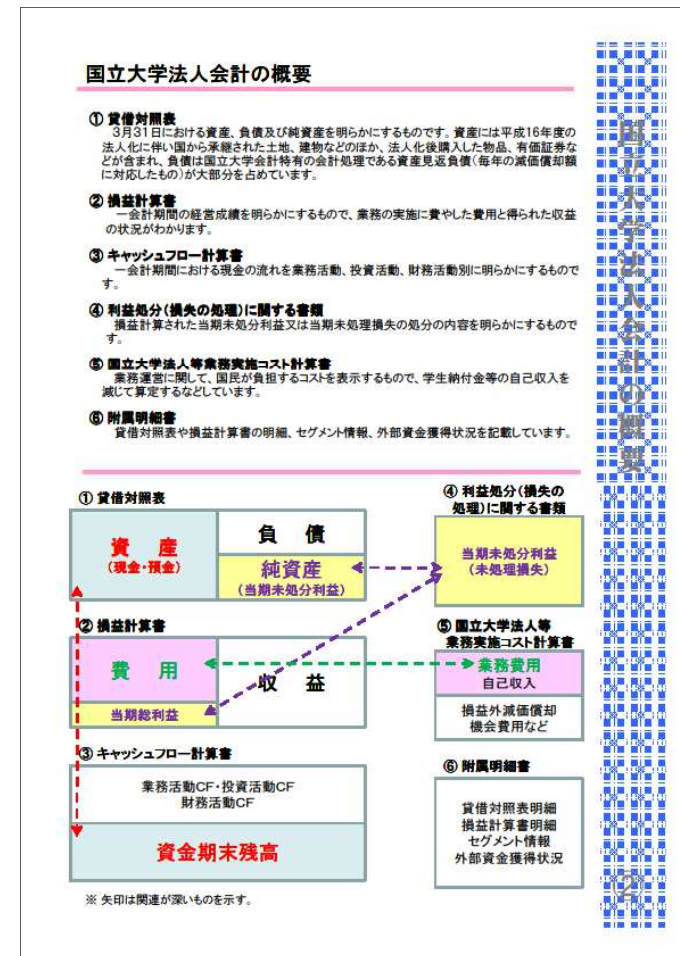
- 財務部に監査係を新設
- 新たな財務会計システムの導入(更新)に伴い、業務フローの見直しやシステムマニュアル(Web版)の作成

外部研究資金その他自己収入獲得への工夫

- 研究戦略推進本部では外部資金申請に対するアドバイザー制度を整備し、指導助言体制を拡充
- 共同研究推進センターでのスタートアップ助成事業に加え、新たにプロトタイピング推進助成事業を導入

経費抑制の努力

- 経費削減実績43,804千円削減
(削減例:刊行物の体裁等の見直し、仮想化サーバへの利用、会議資料ペーパーレス化等)
- 22年度の人件費削減実績:116,111千円削減(△約1.4%減)



↑「財務レポート」の一部。財務に詳しく無い方にもわかるように図解もあります。

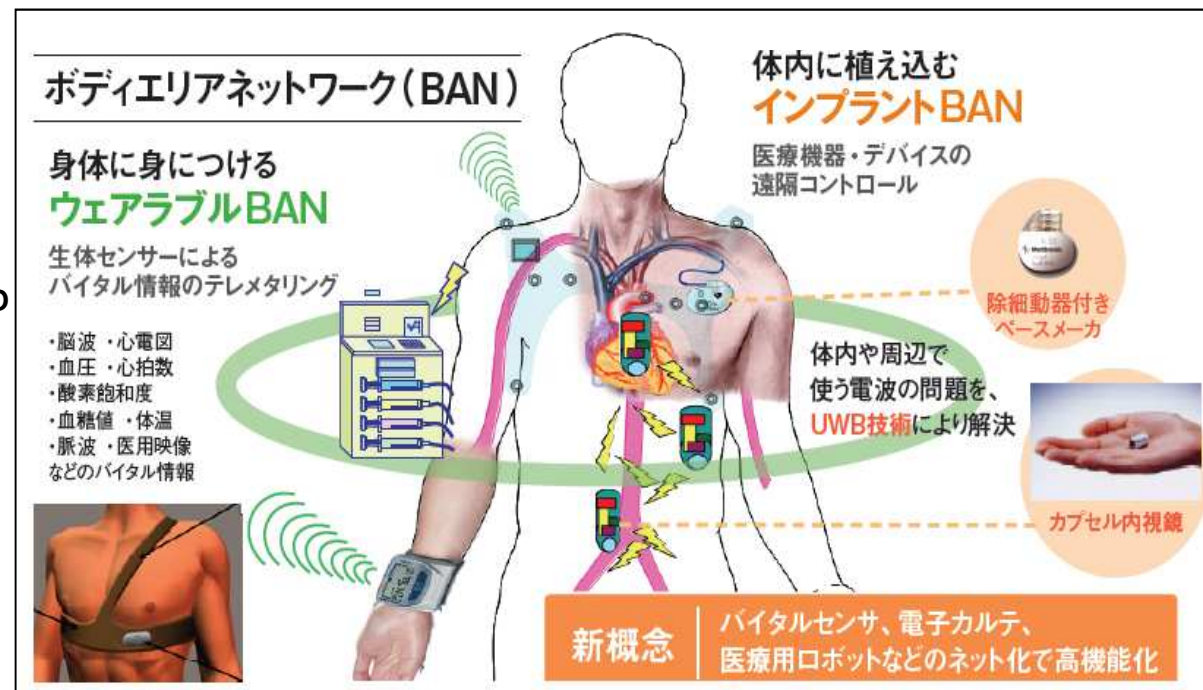
自己点検評価の拡充と外部からの評価

自己点検評価の拡充への取組

- ・ 平成23年度より「企画・評価会議」を設置し、企画立案から評価結果分析、改善までのPDCAサイクルを一元的に管理
- ・ 法人評価専門委員会と認証評価専門委員会を統合して「評価部会」を設置し、教育研究評価と業務運営評価の一元化
- ・ 昨年度までの評価結果を基に『質向上事項』として更なる取組に期待する事項を新たに決定
- ・ 大学情報データベース分析による自己点検評価を実施（公表は平成23年度）

外部機関からの評価

- ・ 「情報通信による医工融合イノベーション創生」（グローバルCOE／工学研究院）が中間評価において高い評価
- ・ 「Gomez大学サイトランキング2010」で本学Webが第4位受賞
- ・ 2010Times大学ランキング462位（国内23位）



情報公開や情報発信等の推進

- ・ YNUユニバーシティアイデンティティシステムにより、本学のスローガン、部局スクールカラー、ロゴの制定など全学統一して広報活動を推進
- ・ 大学Web(日本語・英語)をはじめ、すべての部局Webを統一全面リニューアルの実施
- ・ 様々なコンセプトの広報誌を発行
 - ・ 在学生保護者向け「CloseUp YNU」
 - ・ 在学生向けキャンパスマガジン「ヨコマガ」
 - ・ 在学生と受験生向け「横国 navi GATE」
 - ・ …など
- ・ 理工学部・都市イノベーション学府設置に伴い、オープンキャンパスの追加実施やWebページ開設
- ・ 海外で活躍している本学卒業生によるイベント等での講演等を実施
(上海交通大学副学長(ホームカミングデーメイン講演), 山西大学言語科学研究科副所長(サイエンスカフェ))



統一デザインの名刺。
こういうところでも一体感。



本学の広報誌(左ヨコマガ、右横国naviGATE)表紙も本学学生が飾ってます。



いろんな意味でアツかった去年のオープンキャンパス。

施設設備の整備、有効活用等

- ・ 新たに『常盤台キャンパスフレームワークプラン2011』を策定し、土地利用計画，交通計画，屋外環境計画，インフラ計画などの基本方針を提示
- ・ 創立60周年記念事業として，情報発信基地の設置，メインストリートの改修，正門周辺と国大橋周辺を含む再整備等の実施
- ・ 民間資金による独立採算型整備事業「大岡インターナショナルレジデンス」が完成、民間業務委託により運用開始



正門アプローチ



メインストリート



インフォメーションキューブ
(情報発信基地)



大岡インターナショナルレジデンス

- ・ ライフサイクルコストの試算による施設を修繕し，屋外安全対策用フェンス，屋根修繕，トイレ改善などを年次計画で実施
- ・ 附属図書館の書庫利用時間を1時間延長し，平日21時まで利用延長

改修後の国大橋 →

YNU 横浜国立大学
YOKOHAMA National University



安全管理、法令遵守に関する取組

安全管理への取組

- ・ 教職員向け「安心プログラム(心の健康づくり)活動方針」の作成, 「高圧ガス貯蔵量の適正化」など計画的にマニュアル等を整備
- ・ 自動応答メールによる緊急情報提供サービスを運用開始し, 東北地方太平洋沖地震による後期試験延期(中止)緊急情報を受験者・教職員に迅速に提供
- ・ 全学災害対策本部組織の見直しにより, 災害時の体制と方針の改善強化



法令遵守のための取組

- ・ YNUリサーチイニシアティブの下, 利益相反マネジメント規則と安全保障輸出管理規則の制定, 放射線障害予防規則の改正により体制整備
- ・ 財務課に監査係を新設し, 内部監査の充実強化とともに, 研究費不正使用防止と啓発活動対策の強化
- ・ 情報セキュリティー内部監査実施手続と事務情報セキュリティー管理体制下における緊急対策マニュアルの作成
- ・ 内部監査の重点事項として情報セキュリティー環境・管理体制を監査



卒業生・教員の活躍

- ・ 元環境情報研究院・中西準子教授、本学卒業生・藤嶋 昭氏 (現・東京理科大学長)が文化功労者に
- ・ 山田均副学長が国土交通大臣賞を受賞
- ・ 西澤立衛教授(工学研究院所属)、建築界のノーベル賞と言われる“プリツカー賞”受賞
- ・ 横浜建築都市スクール(Y-GSA)「高度専門建築家養成プログラム」が平成22年度日本建築学会教育賞(教育貢献)を受賞



藤嶋 昭氏



中西 準子氏



山田副学長



学長から表彰を受ける西澤教授 (前列右)と北山教授(前列左)

教員・学生の活躍

- ・ 平成22年度文部科学省科学技術分野表彰にて環境情報研究院 松本 勉 教授が科学技術賞(研究部門)、同研究院 四方順司 准教授が若手科学者賞を受賞
- ・ 環境情報研究院 石川正弘准教授、「南極地域観測功労者表彰」を受ける
- ・ ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー 福多佳子研究員、北米照明学会「照明デザイン賞優秀賞」、社団法人照明学会「照明普及賞」を受賞
- ・ 横浜国立大学フォーミュラプロジェクト(YNFP)が、「第8回全日本学生フォーミュラ大会」総合優秀賞第3位獲得



四方准教授(左)と松本教授(右)



南極での石川准教授



YNFPの皆さん。
'08は4位, '09は3位と近年は上位入賞
を果たしています。

福多研究員の作品。本物は
横浜駅東口とみなとみらいを繋いでます。



Y **YNU**

横浜国立大学

YOKOHAMA National University